



## 笑顔で輝く高山村



高山村長  
後藤 幸三

例年になく早い春の訪れに、戸惑い気味でしたが高山村の里も新緑につつまれて、生命あるものすべての躍動が感じられる今日、村民皆様にはご健勝のことと、心からお慶び申し上げます。

さて私事ではありますが、過去4年間村民皆様のご理解、ご協力を賜りまして、心から厚く感謝申し上げますと共に御礼申し上げます。そして今回、村民皆様のご支援を頂き、再び村政運営を担うこととなり、改めてその重責を痛感している次第でございます。そして村民皆様と共にオール高山で更なる「笑顔で輝く高山村」の発展に取り組んで参りたいと考えております。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

さて、全国的に少子高齢化、人口減少が急速に進んでいることが大きく問題視されています。群馬県でも、先日の上毛新聞に県内35市町村の2045年の人口推計が掲載されていました。

この推計によると高山村の人口は2481人、およそ3分の1減少することになります。人口減少社会とはいえ、その鈍化に向けての取り組みは必要かと思えます。このことから、ふるさと創生事業は欠かすことができません。この事業の中には、人口減少対策、空き家対策、インフラ整備、教育イノベーションの推進、道の駅を中心とした交流人口の増加策等さまざまな施策があります。実質公債比率の推移を見ながら適宜進めてまいりたいと考えております。

パス大学が高山村から撤退しましたが、幸いにして、その代わりに学校法人日本アカデミーが進出し、「おもてなし」「調理」「日本語学科」の内容で主に東南アジアからの留学生を中心に開校しています。こちらの学校を卒業しますとホテルや観光地での就業、福祉専門学校や看護学校への就学の後、看護師や介護の現場で活躍が期待されます。現在は50名ほどですが、いずれは3桁の数字になる予定と聞いています。村の人口に加算されることになり、異文化交流、多文化共生にも役立つと期待しております。

小規模農家についてもハウスを利用した冬の野菜づくりに取り組んでいただけるよう、支援策を考慮中であります。

以上、私の抱負の一端を述べましたが、村民の皆様と共にオール高山で元気な村づくりに、更に「笑顔で輝く高山村」を目指して頑張ってください。

どうぞ皆様方の変わらぬご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。